



114
A 1291



民業興起ヲ希圖セラレ、ニ出ルト雖モ一般ノ人民ヨリ
 之ヲ見レバ其事偏厚偏薄、觀無キヲ得ガルヲ以テ其公
 平ヲ失スルノ誹ヲ招ク。下無キニ非ズ又干涉主義ヲ答ム
 ルノ論者ハ或ハ其事ヲ以テ却テ民業ヲ妨碍スルモノナ
 リト做スニ至リ其他ノ評論モ亦一ニレテ足ラス且従前
 貸資ノ零分方ニ於ケル一定ノ例規ナク各事其法ヲ異ニ
 スルヨリ勢ニ錯雜紛擾ノ弊ナキヲ保シ難ク因テ將來之
 カ標準ヲ設ケ以テ其偏厚偏薄ノ患ヲ防キ錯雜紛擾ノ弊
 ヲ免カレシメシカ爲メ今回貸資規則立案ノ事ヲ 秀治
 ニ命ゼラル秀治退テ謹テ案スルニ抑政府ハ公共ノ福祉
 ヲ持進シ闔國ノ公利ヲ衛護スル所、衙門ニレテ其政

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄



令舉措宜シク全国一般ニ其功益ヲ普及スルヲ期シ偏
厚ノ弊ナク公明ノ理ヲ躰セン^トテ勉ムベキハ素ヨリ
治ノ賛言ヲ待タザル所ニシテ竊ニ信ズ閣下モ亦同ヨリ
深ク其意ヲ躰セラル^トテ然リ而シテ各民族文化ノ開進
其度ヲ均ウセズ時運ノ隆替其期ヲ同ウセザルヲ以テ政
治ノ方策自ラ一轍ニ出テカレハ自然ノ勢ナリ而シテ我
國人民ノ如キハ數百年間專制ノ制度ニ慣着シ鎖國ノ陳
套ヲ墨守シ進テ海外諸國ノ狀況ヲ探ルノ気力ナク退
テ内地物産ヲ改良振起スルノ工夫ナク其勤惰ハ以テ國
力ノ強弱人民ノ禍福ヲトス可クシテ至大ノ關係ヲ有ス
ルヲ知ラズ徒ニ舊習古態ニ戀々トシテ自ラ貧弱ヲ悲ミ
時勢ノ变换ヲ憂フル^トニ^ル國家ノ物産實力上ニ直接ニ
論^ニ莫ソ國勢ノ隆旺開進ノ道ヲ講スルニ違アラシヤ故

ヲ以テ一旦交誼ヲ外國ニ通スルニ及テ忽焉内外ノ權衡
ヲ失レ糶糶相稱ハズ彼ノ製産物價ハ益我市場ニ擅横レ
而シテ我ノ製産漸ク衰頽ノ状ヲ現ハサントス於是政府
夙ニ之ヲ憂ヒ本省ニ任スルニ勸業ノ責ヲ以テテ孜々ト
シテ誘導保護ノ方法ヲ設ケ民業ヲ扶助シ物産蕃殖ノ術
ヲ施シ貿易隆興ノ策ヲ講ゼシム實ニ本邦現今ノ情勢萬
止ム^ト得ザレ^ト方策ニ出ルモノナリ然リ而シテ勸業ノ
術タル製産ニ係ルト貿易ニ係ルトヲ論セス之ヲ實施ス
ルハ或ハ東ニ厚クシテ而シテ西ニ薄ク或ハ彼ニ施
サズシテ此ニ行フニ至ルハ蓋シ避ク可カラナレ^ト通患
ニシテ就中彼ノ傾資法ノ如キニ至テハ則其患最モ著明
ニシテ人心ニ感^シ易キ者トス如何トナレハ其金額タル
皆人民一般ノ租稅ヨリ出ルモノニシテ之ヲ貸與スルハ

乃チ一人又ハ一社ノ望ヲ充タシムルノ状アルヲ以テナ
リ是ヲ以テ假令幾百條ノ規則ヲ制スルモ到底實與ノ施
行ヲ廢止スルニアラサレハ則金額ノ多少ヲ問ハズ其方
法ノ如何ニ拘ハラズ決シテ偏厚偏薄ノ外觀ヲ免ルベカ
ラス故ニ若シ唯此患ヲ免シテ切望スルハ則斷然實資ノ方策ヲ廢止スル一法アル
ノミ復シ他ニ良策アルヲ知ラズ然レドモ今日本邦ノ情况固ヨリ之ヲ廢止スルヲ能ハサル
ハ閣下ノ素ヲ深ク熟知セラル、所ニシテ其應施ノ繫レ所ノ大ナルヤ人民
為ニ貧富ヲ異ニシ隨テ皇威ヲ隆替シ國力ヲ強弱スルハ
數ノ賄易キ者ニシテ實ニ忽諸ニ付ヌ可ラサレナリ蓋シ
從來本邦製産貿易ノ業ニ從事スル者大抵皆僅少ノ資本
ヲ以テ各自分裂シテ業務ヲ営ムノ習慣ナレハ其製産物
品各種其様ヲ異ニシ價格モ亦其平均ヲ得ズ故ニ之ヲ海
外市場ニ貿易スルニ商沽ノ不便ヲ極ムルノミナラズ

鬻賣ノ門路ヲ失フテ製産ノ隆盛ヲ妨碍シ而シテ其或ハ
一朝蹉跌スル者ハ如キハ復資力ノ乏ヲ維持スル無レ馬
車數千百万ノ資金ヲ集合シ實驗ニ富優ナル外商ト競争
顔顔スルヲ得ンヤ然リ而シテ偶ニ事業ノ盛大ヲ期シ本邦
亦ハ歐米各國ニ比較スベキモ其實カ物産ノ興振ヲ謀リ貿易
上ノ便益ヲ求メ稍内外比等ノ業務ヲ經營セントスルノ
有志者アルモ亦據テ其業ヲ起スベキノ資金ナキヲ如何
セン然レハ則唯政府ノ財面ヲ之レ重シテ貸與ノ舉ヲ
廢ス可キ乎將タ富國ノ實ヲ謀リテ之ヲ存ヌ可キ乎取舍
ハ決多辨ヲ待マレテ定ム事ナリ而シテ果シテ富國ノ
實ヲ謀ルヲ急トスレバ則政府体面ノ全カラザレハ問フ
ニ違アラザレナリ故ニ從來政府ノ之ヲ舉行セラレハマ
深ク及ニ鄭重ヲ加ヘ決シテ普通ノ常務ト同視セラレズ

其議起ルキハ内蔵兩卿躬親ラ談業者ニ尋問討論シ能ク其藝能及ビ精神ヲ識得シ然レテ後其可否ヲ決スルモノナリ七八ニ居リ而シテ普通地方官ノ上中主任局員等ノ調査ニ依リ決行スルモノハ甚ク稀ナリ現ニ本局掌管スル所ノ木燧製造上海經領事品川忠道建議ニ依リ舊勦業寮ニ於テ木燧製造着手ノ機ニ際シ新燧社出願ノ趣ニ依リ寧ロ官設ヲ廢止スルモ該社ヲ補助スルノ趣ニ依リ其資金ヲ貸与マシテ之ヲ概言スレハ官府ノ如シ業及ヒ五代友厚ノ製藍藍字部制改良ノ議ハ者ナレモ官府ノ如シ業及ヒ五代友厚ノ製藍字部制改良ノ議ハ業ニ依リ舊勦業寮ニ於テ試驗研究中友厚ニ於テハ其以前ヨリ已ニ舊勦業寮ニ於テ試驗研究中友厚ニ於テハ其以前ヲ以テ是亦補助セ其他廣業商會ナリ起立工商會社ナリ皆此事情ニ外ナラザルモノニシテ兩卿ノ深ク任レテ始終注意ヲ享クセラレモ前々陳述スル所ノ至大ノ關係ヲ有スル者ナルヲ以テナリ然ルニ今強テ之レカ制規ヲ設ケ之ヲ處分セントスレバ則チ當偏厚偏薄ノ患ヲ免レザ

ルニシナラズ規則設立ノ効ナクシテ却テ為メニ弊害ヲルヲ見レ故ニ試ニ其要領ヲ左ニ陳シテ以テ參考ニ供スル一抑規則トハ據テ以テ普通尋常ノ事務ヲ處分スル所ノ紀律ニシテ而シテ臨機宜キニ處スルノ事務ニ至テハ則之レガ規則ヲ設為スレバ能ハス而シテ今資金ノ事クル政府應行ノ本務ニ屬スルモノニ非スレテ國情已ムヲ得サルニ出ル者ナリ故ニ之ヲ普通一般ニ行フテ能ハズシテ臨時特別ニ處スヘキナリ且強テ之ヲ一般普通ニ行ハントスルモ素ヨリ有限ヲ以テ無限ヲ待ツモノナレバ亦行ハルベカラズ是規則設立スベカラザル所以トナリ

一凡ソ規則ヲ設立セントセバ先ツ其目的ヲ立テ其制限ヲ定メザルベカラズ然レバ則其目的トスル所海外貿

易ニ在ルカ内國製産ニアル乎而シテ海外貿易ト云ヒ
内國製産ト云ヒ其部類ノ廣大ニシテ事端ノ繁多ナル
僕ヲ更フルモ其數ヲ盡クスベカラズ而シテ之ヲ一規
則中ニ綱羅セント欲スルハ則其條款ノ主意徧通該博
ナラザルベカラズ然ラザレバ則杆格支吾シテ通ズル
一能ハガラン其主意ヲシテ徧通該博ナラシムルハ則
其目的ノ在ル所汎然トシテ指示スベカラズ而シテ苟
モ貿易スベキ者苟モ工藝民産ニ係ルモノ皆其目的ニ
歸セサル一無ルベシ果シテ此ノ如クナレバ則之ヲ目
的無シト謂フモ亦証言ニ非ルベシ是レ規則設立スベ
カラザル所以ノ二十ナリ

一萬一果シテ能ク其目的ヲ立テ其制限ヲ定ムル一ヲ得
ルモ其事ノ一般普通ニ及バントスルハ則規則ヲ設立

スルノ常勢ナルヲ以テ苟モ其目的ニ合ヒ其制限ニ踰
エズシテ其規則ニ合準ス可ケレバ之ニ許スニ貸金ヲ
以テセザルベカラズ夫レ物ヲ貸付スルハ則其人ヲ信
ズルニ出ヅ而シテ其人ヲ信スルモ事情不可ナレハ則
之ニ貸ス一ヲ得ズ此レ世人貸借ヲ行フノ常情ニシテ
一己私有ノ物ヲ以テスルモ其注意ノ厚キ斯ノ如シ然
ルニ人民ノ膏血ニ出ル所ヲ任托スル者ニシテ而シテ
此ニ出テ去却テ唯其規則ニ合準スベキヲ以テシテ
出貸シ而シテ其人ノ信不信ヲ問ハズ其事情ノ不可
ヲ論セザレバ則為ガ之ヲ能ク其托ニ負カズシテ其任
ニ勝フル者ト云テ得シヤ故ニ宜シク其人ノ信不信ヲ
審ニシ其事情ノ不可ヲ詳ニスルニ非レバ則與奪ヲ
決ス可ラズ然レニ唯規則ニ合準スルヲ以テ之ヲ許シ

ント欲ス其妄動濫作ニ流レサルニ總ニ僥倖ノミ是レ
規則設立スベカラザル所以ノ三ナリ
一或ハ曰ク規則ヲ設立スルモ豈唯之ニ合準スルヲ取ル
ノミニシテ而シテ其人ニ問ヒ其事情ヲ察スルヲ為
サバラン乎ト然レモ營利ノ事タル活機中ノ活ナル者
ナリ故ニ其景情ノ變換スルヤ殆ト朝夕ヲ保ツバカラ
ズ然レニ今規則ヲ以テ之ニ應セント欲ス抑モ何等ノ
規則ヲ以テセントスルヤ夫每人各異ノ心情千變万換
ノ事情ハ一規則ノ能ク盡ス所ニ非ズ已ニ之ヲ盡ス
能ハガレバ則之ヲ可否スルハ到底執柄者ノ心ニ在テ
而シテ規則ニ在ラザルマ知ルベシ執柄者ノ心ニ在テ
而シテ規則ニ在ラザレバ則其事能ク規則ノ目的ニ合
シ制限ニ適スルモ執柄者之ヲ可トスルニ非レバ則之

非貸金ヲ許スニ能ハズ是ノ如クナレバ則貸金ノ與奪
一ニ執柄者ノ權ニ在ルニシテ而シテ今故ヲニ之レカ規
則ヲ設立セント欲ス所謂徒法ニ非ズレテ何ガヤ是レ
規則設立スベカラザル所以ノ四ナリ
一又曰ク社会ニ活機ナリ而シテ政府ノ理治スル所ナト
レテ其活機タル社会ニ關係セザレバ莫レ然ルニ今活
機タルヲ以テ之レカ規則ヲ設立スベカラズト為レバ
則政府ノ理治スル所悉ク之カ規則ヲ設立スルニ能ハ
ザルベシト其レ然豈其レ然ランヤ政府ノ規則ヲ設立
シテ其事ヲ理治スルヤ皆其應行ノ常務ニ係ラザルハ
莫レ而シテ機ニ臨ミ宜キニ處ヌ可キ此貸金ノ事ノ如
キハ則何如ソ之カ規則ヲ設立スルヲ得ンヤ其事務ノ
常要モ亦辨ゼザルベカラズ是レ規則設立スバカラガ

ル所以ノ五ナリ
然レモ姑ク右ニ列挙スル五條ノ不可ナキモ、トスルモ
又爲メ生ズル所ノ弊害ナルヲ如何セン因テ又之ヲ左
ニ陳セシ
一 今夫レ目的ヲ立テ制限ヲ定メ以テ貸金規則ヲ設爲レ
テ之レヲ國中ニ頒布スレバ則テ人民争テ之ヲ借ラント
欲レ將ニ其從來營業ノ所ノ業ヲ棄テ、以テ規則ノ目的
ニ合フ者ニ就カントスルハ勢ハ免レサル所ニシテ其
極或ハ相率テ政府ニ金ヲ貸ラガレテ以テ愚トスルニ
至リ甚シキハ則テ自家ノ産有テ他ニ用テ政府ヲシテ其
缺ヲ補ハシメントスルモ亦知ルベカラズ縱令其目的
ヲ精確ニシテ其制限ヲ緊密ニシテ以テ輕ク人民ノ請
求ニ應ジザラント欲スルモ其事苟モ其目的ニ合ヒ其

制限ヲ踰エガレバ則テ之ヲ許サズルヲ得テ其目的ニ合
ヒ其制限ヲ踰エガレテ以テ之ヲ許サバ則テ人民相争テ
其事ヲ易ヘ其業ヲ變シ以テ唯規則ニ合準センイテ是
レ務メ奮然自ラ恃ミ政府ノ助資ヲ仰ガズレテ事業ヲ
經營スル者或ハ地ヲ拂テ盡キ點工奸買相乘シテ其詐
謀ヲ逞ウレ以テ射利ノ途ヲ得クリト爲ヌカ若キニ至
テハ則テ人民ノ事業多クハ皆虚浮ニ流レ富國ノ實未ダ
擧ラガレテ而レテ政府已ニ其支給ニ堪ヘザルニ至ラ
ン是規則ヲ設立スルノ弊害アル一ナリ
一 然レドモ其規則ヲ人民ニ頒布セザレテ竊カニ政府内
ニ於テ官吏ヲシテ準據セレメンカ是レ亦大ニ弊アル
ヲ見ル夫レ貸金ノ事タル全ク信憑ニ出ルモノナリ然
レニ今之ヲ貸スニ信憑ニ依ラズレテ規則ニ依レバ恐

クハ其實ヲ問ハユレテ其形ヲ重シジ官吏ヲレテ口ヲ
藉ルヲ得セシムルニ至ラシ夫レ藉口スル所アレハ則
其責ニ任ズルヤ薄シ責ニ任スルヲ薄キレバ則其妄動
一濫作ニ流レガレテ知ルマカラズ且公然其規則ヲ人民
ニ頒布セザルヲ以テ一般ノ人民ハ之ヲ知ラズト雖モ
然レ氏其官吏ニ親昵スル者ニ至ツテハ則之ヲ知ル
無キヲ保ツ可ラズ若シ夫レ官吏ニ親昵スル者ハ之ヲ
知リ官吏ニ親昵セザル者ハ之ヲ知ラザレバ則其知ル
者ハ其規則ニ合準スルヲ得テ以テ貸金ヲ得其知ラ
ザル者ハ得ズ此ノ如クナレバ則獨リ偏厚偏薄ノ弊ヲ
生レテ以テ人民ヲシテ不平ト心ヲ懷カシムルノミナ
ラズ百方官吏ニ親昵スルヲ求ルニ至リ恐ラクハ弊害
百出レテ底止スル所ナラズ是レ規則ヲ設立スル

ノ弊害アルニナリ

規則ノ設立スベカラザル既ニ如此故ニ貸資與奪ノ權ハ
全ノ閣下等ノ胸臆ニ存レ他ノ人民ハ勿論官吏ト雖モ其
如何ヲ量知レ得ザルモノトナレ苟モ其事アルニ臨テハ
決シテ之ヲ普通ノ常務ト混淆同視セズ閣下自ラ其得失
ヲ審察シ奏績ノ責ハ親レク負擔セラルベキ程ノ精神ヲ
以テ英決スベキノ外他ノ良策ヲ見ザルナリ蓋シ其
許否得失ヲ議スルヤ廣ク内外ノ景況ヲ洞察シ利害ノ權
衡ヲ審査シ以テ深謀遠慮ニ出ザルベカラズ故ニ政府ノ
一隅ニ局在レテ全部ノ大勢ヲ洞觀スルヲ能ハザル者ノ
得テ其宜ヲ利スル所ニ非レナリ是ヲ以テ之ヲ觀レバ則
徒未民業勸奨ヲ統任スル本省ト財政ヲ總管スル大蔵ト
兩卿相ト恠議レテ而レテ決行セラレタルモ亦故ナレ哉

但該事ノ程怨ニ為スベカラザルハ前ニモ陳述セシ如ク
ニシテ其舉措ノ當否ハ一ハ政府ノ體面ニ關シ一ハ國家
ノ盛衰ニ拘ハリ兩ナカラ皆是内閣大臣等貴重ノ責任ニ
關スルモノナレバ其事ノ至大ナルモノニ至テハ閣下親
ラ大臣等ト之ヲ熟議シ全政府ノ精神ヲ以テ斷然決行セ
ラレバキヲ以テ至當ノ處分ト為ス可キナリ依テ存省謗
劣ヲ顧シズ敢テ赤心ヲ吐露シテ閣下ニ聞ヌ願ハクハ幸
ニ高裁ヲ賜ハン下ヲ

明治十一年十一月

内務大書記官河瀬秀治

頓首拜具

内務卿伊藤博文殿閣下